理想と現実

タジバエワ ジャニヤ
日本語・日本文化研修留学生　カザフスタン

私は日本語・日本文化研修留学生として和歌山大学で勉強しています。日本語は大学に入る前も勉強してきました。今までの一番大きな夢は、日本に来て日本で生活することでした。しかし、それが現実になったら自分の中で何かが変わってしまったような気がします。

日本語に興味を持ち始めたのは６年前ぐらいです。その頃はアニメが人気で、私はすぐにアニメのファンになりました。いろいろなアニメを見ていて日本に対するイメージが浮かんできました。私にとって日本は、普通ではない、素晴らしい、まるでおとぎ話のような場所になりました。それで、いつの間にか日本語を勉強し始めたのです。日本語は私が話すロシア語と違うのでとても面白かったです。勉強するにつれて日本語への興味が次第に深まっていきました。まずはひらがな、カタカナ、そして少しずつ漢字を勉強しました。

ある日、日本語の教室を見つけて、そこに週２回通うようになりました。新しい人たちと出会って多くの友達ができて本当に幸せな時期でした。あっという間に３年もたってしまいました。この３年は日本に行きたいという気持ちがとても強かったですが、お金がなくてなかなか日本へ行けませんでした。行きたくても行けないという状態の中で、日本に対する理想―町がきれいで、人も優しくて、生活が楽だというような世界―がますます強まっていきました。当時は日本を実際に見ていないので、日本の生活のメリットやデメリットなどがわかっていませんでした。ですから、日本について良いイメージだけを持っていました。

日本語能力試験（JLPT）のレベルが N2 になった時、自分が通っていた日本語教室で教師として日本語を教え始めました。生徒たちにときどき「日本に行ったことがありますか。」と聞かれました。毎回「いいえ。」と答え、日本に行っていないことをさらに悲しく感じました。「このままもう行く機会がないのではないか」というような考えにとらわれていました。このように寂しく感じていたからこそ、「素晴らしい日本」という理想がもっと強くなっていったような気がします。

その当時、まだ進学していなかったので、両親に迫られ、大学に入学せざるを得ませんでした。学部を選ぶときに「日本語が上手だったら、大学から日本に留学できるよ。」と友達に言われました。運命を試してみようと思って、日本語学部を選びました。しかし、実はもう日本に対する興味が弱くなっていて、日本に行きたいという気持ちも薄まっていました。ですから、入学試験で合格してもしなくても、私は気にしませんでした。意外なことに入学試験に合格しました。そして、大学２年生のとき、ついに日本へ留学できることになりました。

留学できるのがわかったとき、とても嬉しくなりました。「やった！」と言いながら涙が出そうになるくらい嬉しい気持ちでした。新型コロナウイルスのせいで準備が大変でしたが、2020 年 12 月にようやく日本へ来ました。成田空港を歩いていて嬉しくてたまらなかった

気持ちを今でもよく覚えています。

日本の生活については、一人暮らしが初めてのこともあって、最初の１ヶ月は少し辛かったですが、日本にいること自体がとても嬉しかったです。また、和歌山の色々な所へ行くことができたり、たくさん写真を撮ったり、毎日の生活を楽しんで、日々の出来事にすごく感動しました。しかし、1 ヶ月ぐらい過ぎてから、嬉しい気持ちや感動することが少なくなってきました。

これまで私の持っていた「おとぎ話のような日本」という理想が間違っていたと気づき現実が見え始めたのです。日本に来たばかりのわくわくという気持ちが落ち着き、本当の世界が見えてきました。本物の日本人に会ったり、話したり、愛されたり、だまされたりして、真実がわかり始めました。真実は「日本は普通の国」だということです。素晴らしい魔法の国ではなく、とても普通の国で、この地球にあるということがわかりました。

日本は他の国より優れている部分もダークの部分もあるので、カザフスタンやロシアと変わらない国だとわかりました。現実の日本と私の理想の日本が違うことにショックでしたが、それは誰のせいでもありません。これまで頑張ってきた日本語の勉強以外にも何かできることがあるのではないかと今は思うようになりました。自分の人生でこれから日本語とともにしたいことについて真剣に考えられるので、この留学は私にとって本当に役に立ったと思います。この留学のおかげで自分の目標と夢について深く考えられるようになり、精神的に成長できました。日本へ留学してよかったです。

Expectations and Reality

TAZHIBAYEVA ZHANIYA
Japanese Studies Student／Kazakhstan

I'm an international student in Wakayama University in Japan. I've been studying Japanese language and Japanese culture for a long time. The biggest reason of my interest in Japan was anime culture. As a result, a very strong and interesting impression of Japan in general began to form inside my mind. I was seeing Japan as something great, something miraculous and out of reach. I began to praise it. It became some sort of a sacred place for me. Going to Japan was the thing that I wished to happen the most.

But when I finally reached the destination, that impression began to slowly fall apart and crash into pieces. In this essay I tried to share my feelings about it and explain why reality sometimes differs from our expectations.

Ожидание и Реальность

Тажибаева Жания
Иностранный студент, обучающийся японскому языку／Казахстан

Я иностранный студент, изучающий японский язык и японскую культуру в Университете Вакаяма. Я довольно долгое время изучаю японский язык и культуру. Самая веская причина моего интереса к Японии в целом, это аниме. Благодаря ему, у меня уже давно сложилось очень странное представление о Японии. Япония казалась мне каким-то чудесным, сказочным местом, чем-то недосягаемым и волшебным. Я восхваляла ее, она стала для меня чем-то святым. Единственным, чего я желала больше всего, долго время было просто поехать в Японию.

Однако, когда я наконец-то достигла своей цели, то самое представление о стране, те самые ожидания начали потихоньку распадаться на мелкие кусочки. Я встретилась с горькой правдой. В этом сочинении я пытаюсь поделиться своими чувствами и мыслями на этот счет.